

外語会主催2010年度第3回『文化講演会』のお知らせ

講師：東京外国語大学教授 酒井啓子氏

演題：戦後イラクの政治情勢 - 米軍駐留が何を残したか

日時：2月26日（土）16時30分～18時30分

会場：東京外語会 本郷サテライト4階



講師紹介：1959年生まれ。アジア経済研究所研究員を経て、2005年より東京外国語大学教授。中東現代政治、特にイラクにおける政治体制と政治運動史が専門。著書に『フセイン・イラク政権の支配構造』（2003年、岩波書店）、『イラクとアメリカ』『イラク戦争と占領』『イラクは食べる』（いずれも岩波新書）、『〈中東〉の考え方』（2010年、講談社新書）など多数。現在日本国際政治学会副理事長、日本学術会議会員を務める。

講演概要：2003年のイラク戦争後、イラクでは一党独裁体制が崩壊し、民主化の道を進むことになった。その後、三回の国政選挙の実施、憲法制定と民主体制の確立は着実に進んでいるものの、戦後7年間に駐留米兵4400人以上が死亡するなど、戦後の治安は極度に悪化した。2006年にピークとなったイラクでの治安悪化、宗派対立は何が原因だったのだろうか。2011年末には米軍の完全撤退が予定されているが、イラクの戦後復興は順調といえるのだろうか。

本報告では、現在のイラク社会が抱える諸問題を、戦後の政治的展開過程を追うことで明らかにする。そこでは、しばしばメディアで報じられるような単純な宗派・民族対立に原因を帰するのではなく、「対テロ戦争」の遺恨としての政治対立の激化、政治思想としてのイスラーム主義の政治的役割などに焦点を当てる。

申込み・問合せ先：東京外語会事務局 Tel:03-3815-5877 Fax:03-5842-8377

E-mail: jimukyoku@gaiigokai.or.jp

懇親会：講演後、講師を囲み本郷サテライト8Fにてシンプルな懇親会を予定。

会費：1000円（会費は講演の聴講費、資料作成費、懇親会費に充当）

サテライト・アクセス：東京メトロ地下鉄「本郷三丁目」から徒歩5分。「荻坂上」の角。